



古今佛蹟明題集

雜之部

5  
923  
5





古今俳諧明題集雜部目錄

雜カク 春 初葉  
復 十一葉  
冬 廿四葉  
廿二葉

紀行キコウ 春 從初葉至五葉  
復 從十一葉至十六葉  
冬 從廿四葉至廿四葉  
從廿三葉至廿四葉

留別リウベツ 春 五葉  
復 十七葉  
冬 從廿四葉至廿五葉  
廿七葉

題詠タイエイ 春 從六葉至七葉  
復 從十九葉至二十葉  
冬 從廿八葉至廿九葉  
從廿五葉至廿六葉

漫興マンキョウ 春 初葉  
復 從十一葉至十二葉  
冬 從廿三葉至廿三葉  
廿四葉

送別ソウベツ 春 五葉  
復 十七葉  
冬 廿四葉  
廿七葉

贈答オウタツ 春 六葉  
復 從十七葉至十九葉  
冬 從廿七葉至廿八葉  
廿五葉

題画タイガ 春 從七葉  
復 從二十葉至廿一葉  
冬 從廿九葉至三十葉  
廿六葉

古今俳諧明題集雜部目錄

賀 か 春八葉  
復 從廿一葉至廿三葉  
冬 卅七葉

悼 いた 春 從八葉至九葉  
復 廿二葉  
冬 從三十葉至卅一葉  
卅七葉

追善 ツイジン 春九葉  
冬 卅七葉

懷舊 クイキウ 春 從九葉至十葉  
冬 從廿二葉至廿三葉  
卅七葉

祝詞并唱句 イリトナハコト 春 從十葉至十一葉  
復 廿三葉  
冬 卅八葉

上世片歌并今世旋頭歌片歌 カミツヨイカタウタ イニヨセトウカノカタウタ 從廿八葉至四十六葉

古今俳諧明題集雜部

春 雜

春の野や深の海は日を送り出れ 一 紅  
假山の菊もあはれにまはるるを 艦 亭  
朱鷺は母に夕日やりの暮のたふ 東 奴

漫 興

本瓜煎糖一見之野ハ朱ぬ 江 山 店  
燒ケ 燒ケ 燒ケ 燒ケ 燒ケ 燒ケ 燒ケ 燒ケ 燒ケ 燒ケ  
棋のあつたひをやめてや葉は 北 枝  
くやしのあつたひをやめてや葉は

小里に書して後や松とく先  
武入月川 金井

紀行

キリヨノリツレニ  
羈旅立春

余ハ狩ぬと美やのり  
涼備

芳野山

山はくく一里かぢへく是にり  
全車  
喚起のさへてのり橋り  
全  
手あて暴行すく夜や芳野山  
全  
美鞋にも美のゆくやう  
三橋

お城をたふしにまて山越々を  
瑪曉  
狩りくく花にのゆく神を歌  
芭蕉  
奇生をく橋しり水や海  
曾北  
ゆりゆり入海や神橋  
京  
芳野出く霧のたる山越々  
富鈴  
世の中は美ハ不思議な野山  
野坡  
美は美ハ橋に暖く去るひ  
芭蕉

書寫山

何をさき何をくく  
涼備  
美をぬる生やあまの  
全

籠梅のうめ 涼備

石勒山いさる 司鱸

娘啼いさる 司鱸

油浦すてう 汶上

浦の名法いさる 汶上

駿河いさる

あつちあきさく言ー山はく庭 涼備  
不あれ香里ー消とや梅の花 全

浮吹山いふき

あはれいふきの二日も冬ー浮吹山 全

野上のがみは

床の香のがみはくく夏はく寺 全

いつきのいさる洋いさる

いづ侍日も入いさるれ日も見えく終いさるきー 全

二見浦ふたうら

浦の尾や少りけけニ見写

栞居

鵜アラム石セキ

おろろ驚くるるやおがけ目

水樹

うらひもやうらひをうらひる一つ

西羊

描金松まきま

り雁や描令に乃ほ松のく

希因

曹山かぶと

志之修に田をうへさせく曹山

西羊

宇津山つづみ

宇津山つづみの時比若わか子こりりを

希因

鞠ま子こ山やま

夕ゆふひひををままささぬぬやや鞠ま子こ山やま

五菱

喉のどははののまままま

喉のどははののまままま柳やなぎのの緒いとををちちりりけけけけ

寛之寛之

柳浦 カササ

水やあせま浪にやうきき 涼備

昔年時日 こゆ

ゆくにまごきを見まぬ本の芽 全

くさぐさ

山崎まゝゆるゆる スミレ カサ 芭蕉

疲勞く着る海入海やぬち 全

若てふよりくく メ 頂 全

ゆきまゝ 矢立へ 志海海や 几山  
あし 上つ市の園に 葉 花 可登  
雨は 破了

送別 ソウ ベツ

ゆくまを 芭蕉  
ま 野坡  
 利牛  
 支考  
 麦林

梅の花

のり 飛びやま

梅の花 夜

一音は 昨甲斐のくはる歌  
梅の山又むらゆくを

又梅の花

かへよ 登はさく

涼備

一音材 俳仙 窓に  
四くを 暮る

棋

もあしむ 月日の 進ま 座にハ

全

留別

ゆくまや 多き 魚の目ハ 涙

芭蕉

女ハ あり  
春ハ かくに

まきや 統ぶと 志 海よの 水 表

麥林

笑 翠山に 交戒

クハ 海時

あまや 木魚に 毎の 獲 涙

西羊

贈答

香 可き 土を  
竹 かに ありき

飛 びハ 見ハ 入り 花 表 表

涼備

見 け 表

水に 又 影で 入る 涙は かく 水

曲江

いと 瘦く 人の 影ハ 又 つく 水  
さう 古き 影ハ 思ひ 出 け 水

心 合 して かくも 肥く 表 針 表

宗祇

髪 なが ち 表  
くハ

松も 是く 岳 土 衣の 友や かく 涙 かく 水

冠子



題詠

外詩梅

梅の尾ささやきに二月は月  
領下をぬきむやう先のみち

涼備  
柳居

後ね

糸袖の我袖をびくのたてふ

大坂  
舊國

性善のこゝろを

おと後受はあま恒志梅

沾徳

照顧脚

りあゝもそも若子見侍人の

麥林

有心無心

考子目は人にあはれどゆくほま

涼備

題畫

西施之圖

海棠の花をまじりてあはれく

猿丸

草さの解

ひつひのうら

後たてゝ解にあらむかりけり

涼節

シヤウシコンガウ  
青面金剛

碎ぶさハ人の顔をも山はら

全

和田酒壺

くださ

されば刀のぬいハまどき水む

鬼土

反哺

さる日や子に口寄る夕慈鳥

江ノ道  
春

ツノキリ  
角伐海草の糸に

袖かゝる角解オトしうり糸ら糸

金谷

岩状陸

目をらるるハ鳥かじりけり

秋後車に似  
みさを

老人をあらいできりし酒を

は酒や飲しと茶碗をすくみは  
三橋

セキニヤウノハハエニ  
席と一画

又侍らに素へぬけりやハフ 菫ツツミ 白水

賀カ

賀のさうありし

よんをなぐ

後にうねるまへはと見しゲ門の松 季吟

あはれまを

つぎはくへ

やア梅や橘枝の末を芳ばいカ 加賀 万子

可由が書ぬううに

ううとす

縁に抱く雛像も待べしカ 桃のやど 涼唄

七十のおみまを

なぐ

ハカ 絶頂も思ふうりカ 岩ははらう 全

可やカ

ふそらをなく

あふべし身カ びくと飲む酒を 全

悼カ

よおひの作は

かまうりしほに

飛カ ぶまカ 遠くて悲しカ くのちら花 見風

母かカ 自カ まカ うり

しほに

忙カ しくカ 徒カ 事カ せん海春はやは 兔士

病カ にカ 来カ くるカ ちカ 文カ 意カ のカ もカ ちカ 法カ 支考

鐘カ うカ りカ えてカ 衣カ をカ けカ タカ かカ けカ み 冠子

源カ せカ ーカ 時カ

のろまの温にほろり 佐々木 全

追善

圃ハタのちのこふ秋や極のちく 大阜

懐舊

碑イシの目にもろくく極りち 希因

花の一句を  
おびー

夢に思ひ咲ホトリにおもはくくか 夢林

父の塚

襟エリの遠く杜ツツつうはま 深魚

敷巻シマキの塚

縁シマの下に蔭カゲくハ懐ハむもみまか 涼儀

芭蕉ハクセツの

歌を詠入

まろくさ小鶴あひー泣や水 曲水

近江藤所

祝詞イハコト唱句ウタマコト

喜梅キウバイ大神オホカミ 人をしの

時に実もつら〜自由や梅の花 榊水

麻 清 けい

帯にして珠を垂〜り紫葳のみむ 涼 侖

伊 勢 いせ

何れ本の花とも去〜りにあひうま 芭 蕉

た〜とさや扇にたす扇様 希 因

唱句

文 殊 もんじゆ

あはさるをかく〜く〜てさ 榊 加賀小松 山 叩

同

浅 草 あさ

今もその網戸を〜〜〜おろすに 未了

同

池 と い け

八景の道方ら〜りも〜〜くさ 鳥 谷

復雜

あつゝあつゝ形てお月の空を花  
頼に頼く笛にうゝび文の麻  
東奴  
千林

漫興

恋死を身塚に啼けなくふれ  
子か泣むら子の母も故の喰りむ  
大坂  
嵐蘭

痛中

痛く淡はく人々を合せ杜  
くいなを思ひに  
常たつあつを  
大坂  
淡く

入るは日やまゝなるか  
やとるさうに  
つふまを  
不殘

何ゆゑぞ袷にいろも長りこ  
祿をかへ  
涼備

異りゆたあかぢ渴けバ清き阿  
松より  
全

序もた居毛虫  
山崎  
宗鑑

涼くさを身帯にして祿まふし  
芭蕉

紀行

須磨 まま

章魚壺ツボにまろろま夏や夏 ま月芭蕉

卯月八日

望月にあそびて

灌佛や湖ウミを鹽シホの浮ウキ舟フネき 汶上

涼スズシさや柁シロ杖ヅツに袖スズメの帆フナうけ松 全

淡路を

渡り

夏なつに牛ウシハはまろろ水みづくはま 青因

箱根路 まこ

湖うみのトとゆく水みづや夏なつことち 不殘

西にしのの管くだ さいごや

茶ちやににうう茶ちや羅らううくくくく 涼すずし備び

出いで流りゅう山さん石いし窓まど いづはさ

道みちををくくををくく 去さるるのの水みづ 一ひと籠かご

卯月うしづきの

ちびたるるに

木き着きははままぐぐ茶ちやもも好すぬぬしし夏なつ茶ちや花はな 支し考こう

回一

誠の山あり

日阿のりハ夏草もぐり神様 涼併

五條

海面の紐うけて飛鳥あつさか 漁遠

姨捨山 てやま

祖父祖母もけ時持く田くくを 涼併

川中崎古戦場

たくと野に入みふしても田くを 全

おせむ家く柳戸ねかー布穀 全

高野山 カウヤサン

糸目にも柳く見く涼くはよ 麦林  
抜もるも扇も涼くふ動坂 鬼土

石山 やま

志づらも岩に志く入樹樫のま 芭蕉

本号



棧道カキや人の体カミすぬ木下やカミ 深魚

醒井サメ サメ

一カに脊中カミはかく志カミうカミ 芙白

閑清水セ セ

湖ウミ志目ウミをゆウミめウミうウミ 鳥醉

大井川オ オ

是オでオくオ大井川オうオさオつオきオ雨オ 一鼠

強傍柳チ チ

田一チ橋チ植チくチまチうチ家チやチなチさチうチかチ 芭蕉

鐘崎ネ ネ

彼ネにネ於ネ新ネ葉ネのネ裡ネやネ遠ネかネさネ記ネ 松巴角

家上川ケ ケ

異ケ々ケさケ日ケをケ海ケにケりケるケ家ケ上ケ川ケ 芭蕉

五月雨キを集キめキるキ子キ一キ家キ上キ川キ 全

不破園キ キ

首にまくりハ見えく不破名園 楚調

野宮のや

白<sup>ウ</sup>荊<sup>ハ</sup>花<sup>ナ</sup>もさく思<sup>シ</sup>本<sup>ノ</sup>のさ<sup>り</sup>る<sup>お</sup>小<sup>小</sup> 麥<sup>マ</sup>林<sup>リン</sup>

夏<sup>ナ</sup>草<sup>クサ</sup>に<sup>に</sup>瘦<sup>シ</sup>く<sup>く</sup>ろ<sup>ろ</sup>木<sup>キ</sup>れ<sup>き</sup>多<sup>ク</sup> 希<sup>キ</sup>因<sup>イン</sup>

お<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>さ<sup>さ</sup>び<sup>び</sup>一<sup>一</sup>樹<sup>樹</sup> 半<sup>半</sup> 兔<sup>ウ</sup>士<sup>シ</sup>

木生<sup>キ</sup>時<sup>トキ</sup> ちくぶ

涼<sup>スズ</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>海<sup>ウミ</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>海<sup>ウミ</sup>竹<sup>タケ</sup>生<sup>ナ</sup>時<sup>トキ</sup> 素<sup>ソ</sup>輪<sup>リン</sup>

教<sup>ヒツ</sup>け<sup>キウ</sup>ス<sup>ス</sup>

ま<sup>ま</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>る<sup>る</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>そ<sup>そ</sup>く<sup>く</sup>不<sup>フ</sup>と<sup>ト</sup>ふ<sup>フ</sup>に<sup>に</sup> 一<sup>一</sup>鼠<sup>ネズミ</sup>

子<sup>コ</sup>賀<sup>カ</sup>浦<sup>ウラ</sup> ちくの

帆<sup>フナ</sup>に<sup>に</sup>り<sup>り</sup>水<sup>ミヅ</sup>を<sup>を</sup>教<sup>ヒツ</sup>へ<sup>へ</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>せ</sup>夕<sup>ユフ</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>み<sup>み</sup> 全

宇<sup>ウ</sup>津<sup>ツ</sup>山<sup>ヤマ</sup> やつこの

首<sup>カ</sup>若<sup>ガ</sup>み<sup>ミ</sup>後<sup>イ</sup>も<sup>モ</sup>射<sup>シ</sup>く<sup>ク</sup>晴<sup>ハ</sup>く<sup>ク</sup> 一<sup>一</sup>つ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>中<sup>ナカ</sup>は<sup>は</sup> 許<sup>コ</sup>六<sup>ロク</sup>

か<sup>か</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>何<sup>ナニ</sup>り<sup>り</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>山<sup>ヤマ</sup>路<sup>ヂ</sup>や<sup>や</sup>か<sup>か</sup>む<sup>む</sup>こ<sup>こ</sup>中<sup>ナカ</sup>里<sup>リ</sup> 乙<sup>ニ</sup>孫<sup>ソ</sup>

正<sup>マサ</sup>系<sup>ケイ</sup>を<sup>を</sup> とい

古<sup>コ</sup>井<sup>イ</sup>戸<sup>ド</sup>を<sup>を</sup>開<sup>ヒ</sup>き<sup>き</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>海<sup>ウミ</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>さ<sup>さ</sup>小<sup>コ</sup> 儀<sup>ギ</sup>城<sup>シロ</sup>

くはく

涼しきやけしきく不二以後むき  
ふえはなどたつとも志れはまは家  
小棘繁魚さけ折涼しや等丁が家  
息つぎに柳の元ゆは夏野うか  
おぼろよまは遠し一本陰に懐後兼  
象象の杖にまがやふくしき  
かゝるは休の海匪おちほくを  
短衣や東の早ハるにあハバ

伊勢射和  
三千風

西羊

芭蕉

蒼狐

一系足利  
女  
芝

代成松本  
素因

日長文  
此

王負

送別

麦の穂や出ぬけくも粒麦名中  
浦伊や切くが海横のまき水  
祖まろくは橋にゆく時  
死侍よまろくは待日やふくま  
涼浦伊歩に  
合款をゆく時野に飛ぶや粒くは  
信に  
夏侍時のふやまろくは緊栗は苑  
柳水系にゆく時  
夏侍時ハ又ゆくは夏やまろく

野坡

岱水

沾德

希因

越人

尾城

麦浪

留別

飛かへ侍陸枝のそも路ちく

涼備

常柳命を出侍時

涼くさを出くゆく水や柳かど

全

贈答

舎屋暮りも侍時

短衣の解は中イヒキ新十ヲはく

支考

柳居ハ東にぬり

秀ハ水に之侍

又く侍や笠くくの練表子リ下子

希因

そい

麦水に之侍

好遠ふまやそちくはく

全

あ侍人をそ失くはちく侍の時をそ

まがくはく侍を侍り侍に

まは侍

るむしめ侍く侍し一

大賀

知侍のふど

竹麻多にやま

轍ヒルガホ子苑のやどりにハ侍角あ

涼備

源林かいら

おろく侍時

空海を先別をくかハ侍ま

全

人の侍

侍に

ふのいや子系ハ侍まは侍

三千風

仔細にあらせし一紙  
おくりし書翰ありけり

麦そ束の笠つくりてや、甚うま〜 涼唄

十八橋

けり〜り目に見ゆ寄りの皆涼〜 芭蕉

杜若を  
そめり

やどろきよ〜くは、百合の鬼もあ〜 希因

麦浪亭

々音〜 漆の蚊帳ぞ草は〜 涼唄

若ハ〜と高く羅のあれど  
母ハ〜つべき杖もなきを

懐〜ちの暮さ〜くあ〜りれ〜 全

吸寄庵のあゆ〜を  
〜せ〜

松ハか〜 扇の伊をあ〜〜とを 素園

古山亭

涼〜さや〜 氷並車山もか〜 麥林

青森とて冷〜はに昇降の梅虫園  
西〜よ〜せ〜たり〜に

道ハ船のがと〜水と梅は友  
と〜い〜夏〜亭に〜

釋シニの垢ぬ〜ひもつ〜 兼は〜 涼唄

ま〜を〜て〜ひ〜こ〜に  
ま〜を〜て〜人〜

ニタ〜 岳ぬ守エリたのり〜 景の屋 全

加の大系亭

鐘ヒナあや子に外も人ハ眩ヒナま〜 南蘆

人〜〜〜

短衣やうほど文衣と明うと  
みどろあやあつけくあまを物

西羊  
酒後並に何  
廿藤波

題詠

待意

すのふみやつらむさふどハ故もるり

春魚

大道廢有仁義

一人よへ府の旨まに涼ミル

凉兔

皆是吾子

眼<sup>ナテ</sup>菱<sup>レコ</sup>や照<sup>ホ</sup>海も皇<sup>ミ</sup>歌<sup>カ</sup>歌も茶<sup>チ</sup>此<sup>コ</sup>ぬ 希<sup>キ</sup>因<sup>イン</sup>

漁<sup>キヨ</sup>父<sup>ホノ</sup>辭<sup>コトバ</sup>

香<sup>カ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>り<sup>リ</sup>晴<sup>ハ</sup>に<sup>ニ</sup>長<sup>ナ</sup>く<sup>ク</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>不<sup>フ</sup>し<sup>シ</sup>侍<sup>シ</sup>小<sup>コ</sup> 素<sup>ソ</sup>輪<sup>リン</sup>

鸞<sup>ラン</sup>鳳<sup>ホウ</sup>伏<sup>フ</sup>鼠<sup>ソ</sup>鳴<sup>メイ</sup>梟<sup>コウ</sup>翔<sup>セウ</sup>翔<sup>セウ</sup>

柳<sup>ヤナギ</sup>柳<sup>ヤナギ</sup>や<sup>ヤ</sup>草<sup>クサ</sup>柳<sup>ヤナギ</sup>を<sup>ヲ</sup>待<sup>マ</sup>く<sup>ク</sup>ま<sup>マ</sup>に<sup>ニ</sup>茶<sup>チ</sup>了<sup>リョウ</sup> 玉<sup>タマ</sup>負<sup>ネ</sup>

外<sup>ガ</sup>面<sup>メン</sup>似<sup>ニ</sup>菩<sup>ハ</sup>薩<sup>ツ</sup>内<sup>ナイ</sup>心<sup>シン</sup>如<sup>ニ</sup>夜<sup>ヨ</sup>叉<sup>ヤ</sup>

うつくし<sup>ウツクシ</sup>地<sup>チ</sup>人<sup>ニ</sup>と<sup>ト</sup>は<sup>ハ</sup>さ<sup>サ</sup>命<sup>メイ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>な<sup>ナ</sup>り<sup>リ</sup>小<sup>コ</sup> 尤<sup>ユウ</sup>琴<sup>キン</sup>



尺簡ゆくきたる杜鵑の画に

うらひもれ息女ハスメウ啼ナぬふくま

守武守武

賀カ

枝取が病より たる處をかく

とくすめあしくていをうかこつろ

涼唄

病ほを かく

百艸のあともをうりさうふ雨

双飛

ふたまりりふ

報ヒルガホも株シカたをひそいそぎ

許六

師弟すけいふ人に

まのぬさうり報ヒルガホ像イうくえて懺マ

路通

悼イタ

思イをうらむい 人へ

世の夢に似るやま〜百合の花

支考

おもつけは報ヒルガホ懐イにも透るばつ 鳴み

麥林

れそふ人の力よか

身ハせえく報ヒルガホに様さひ床は〜ら

日 柱 文女 車

夏瘦と他ヒに苔へ依イな〜

日 柱 文女 車

懐クハ 舊キウ



去依きのハ疎——くゆも夏こころ

麥林

田菴を  
たごり

涼——さや此庵をさく位もて——

曾良

ハッリン  
麦林の碑

一持ハ何事へ原——く交こころ

柳居

高館  
どたろ

交まや兵士ともが夏のあと

芭蕉

字ハ  
字ハ

御落馬の事も多し合歡の事

南都  
長江

柳浦  
ガヤガ

收懐——ぬれど悲——ははく

涼城

曾我兄弟の塚

打圍のさそくも水も夏ツ枯

全

祝詞  
のり

いふごとくや 夢をいふて 神カミ魚イサ 麥林

鶴岡つるが

涼スズシ 旗ハタのきざしもきざ下 涼併

秋 雜

路のや家ウチ此と志杉ををるル水ミヅと  
 とゆくト下ノ本ノ家ノや路のミチと  
 帳カたむあや銀屏ハのハ枝キと  
 実ミ路ミチを松マツの尾ビととあアい路  
 路ミチのミチと不フをオいろくクにニあアりリと  
 月ツキ日ヒいイまマみミつツきキと  
 月ツキけケ夏ナツハハ長ナガきキりリりリのノ何ナニも  
 月ツキやヤ六ム日ニチもモつツのノあアにニハハ水ミヅを  
 芭蕉 白枝 江エけケ尺シヤク 禪ゼン師シ支シ考コウ 凡マン兆テウ 其キ角カク

漫 興

糸唐ハ蘇系藩に更ほむううぬ

得鐵牛

菴

備偶カタスミハカをいほやミささくを

得牛

地ツ跡マういかりミ

徳オリ屋ミハあほミに白くやキリク障ス

涼依

お陰もほめむ者ミ何ミさうりくを

全

紀行キカウ

志波浦

卷下ヒト人の乳ミにもかくミさびく月

涼依

羅漢寺ワカンジ

ぬりミの羅漢もろりミささの海 全

野宮ノミヤのや

とけ入侍ミや杖ミも海ミのまミく小柴垣 雲郎

る麻マさミたいミま

齋スソハ管系ミの文ミ多ミるミ菊ミのミさミ 冠子

滝崎タキジかさミが

いりミつミまミやミ新ミ取ミもミしミけミをミ波ミのミこミ 一氣

アノルセキ  
鳥物石

けらの牛ぞゆく〜そ沼のら色

麥林

三井古き見流〜

湖上の月を

るせ序は月の景色に表は波

季吟

文級はから

流流る田

をむ枝中〜茶の強ハ表せり〜

素琴

それとこに文級川中〜蓄麦たる也

園女

流流る田  
流流る田

霽〜ゆく身の漏りあそち志は

伊豫松山  
陰六

大磯〜

を祓若花袂が〜や後とる月

青藍

くさ〜

船中

若花や〜ハ表て〜らぬ柳〜

涼楓

一表ハ中にも〜

〜と〜

をさ〜家の情中〜をこ〜

上総長南  
柅雨

路のうらに

うらいで見ゆ

岩<sup>カト</sup>稜<sup>カキ</sup>に 秋<sup>アキ</sup>ゆく 鷲<sup>トビ</sup>や 路<sup>ミチ</sup>の 水<sup>ミヅ</sup>  
あゝ 海<sup>ウミ</sup>や 依<sup>ヨ</sup>に 横<sup>ヨコ</sup>ふ 水<sup>ミヅ</sup> 川<sup>カハ</sup>  
曙<sup>アキラ</sup>ゆく 中<sup>ナカ</sup> 廿七<sup>ニナナ</sup> 庚<sup>ケイ</sup>も 二<sup>ニ</sup>日<sup>ニチ</sup> 亥<sup>ケイ</sup> 月<sup>ツキ</sup>  
路<sup>ミチ</sup>も 中<sup>ナカ</sup> 二<sup>ニ</sup>日<sup>ニチ</sup> 亥<sup>ケイ</sup> 中<sup>ナカ</sup> 家<sup>イヘ</sup> 此<sup>ココ</sup> 山<sup>ヤマ</sup>  
路<sup>ミチ</sup>の 日<sup>ヒ</sup> 廿<sup>ニナ</sup> 二<sup>ニ</sup> 日<sup>ニチ</sup> 入<sup>イレ</sup> 宿<sup>ヤド</sup> 青<sup>アヲ</sup> 中<sup>ナカ</sup> 枝<sup>エダ</sup> 枝<sup>エダ</sup> 七<sup>ナナ</sup> 枝<sup>エダ</sup>  
馬<sup>ウマ</sup> 望<sup>ノゾ</sup> 中<sup>ナカ</sup> 宿<sup>ヤド</sup> の り み ち と 誼<sup>ギ</sup> 多<sup>タ</sup> 事<sup>コト</sup>  
漆<sup>シ</sup> に と 急<sup>イソ</sup> 向<sup>ムカ</sup> ぎ ら り 不<sup>フ</sup> 破<sup>ハ</sup> 中<sup>ナカ</sup> 月<sup>ツキ</sup>  
身<sup>ミ</sup> に 去<sup>サ</sup> る ち も 移<sup>ウツ</sup> る ち 宿<sup>ヤド</sup> の 山<sup>ヤマ</sup> 根<sup>ネ</sup> ち 一<sup>イチ</sup>  
葦<sup>アシ</sup> 菖<sup>ショウ</sup> 麦<sup>マキ</sup> の 碧<sup>アヲ</sup> 色<sup>イロ</sup> 中<sup>ナカ</sup> 黎<sup>レイ</sup> 明<sup>メイ</sup> ち ち

九月九日

うらやちにあま

凉<sup>レイ</sup> 備<sup>ビ</sup> 芭<sup>ハ</sup> 蕉<sup>キョウ</sup> 全<sup>ゼン</sup> 支<sup>シ</sup> 考<sup>コウ</sup> 雲<sup>ウン</sup> 裡<sup>リ</sup> 希<sup>シ</sup> 因<sup>イン</sup> 五<sup>ゴ</sup> 竹<sup>チク</sup> 凉<sup>レイ</sup> 備<sup>ビ</sup> 湖<sup>コ</sup> 關<sup>カン</sup>

さうりくハ又来依<sup>マタキ</sup>中<sup>ナカ</sup> 菊<sup>キク</sup> あハ 寄<sup>ヨシ</sup>

青<sup>アヲ</sup> 蓋<sup>カシ</sup>

送<sup>ソウ</sup> 别<sup>ベツ</sup>

秋<sup>アキ</sup> 風<sup>フウ</sup> 送<sup>ソウ</sup> 辞<sup>ジ</sup> に 日<sup>ヒ</sup> 暮<sup>ク</sup> 一<sup>イチ</sup> 山<sup>ヤマ</sup> 々<sup>々</sup>

麥<sup>マキ</sup> 林<sup>リン</sup>

伴<sup>トナリ</sup> 習<sup>ナラ</sup> の 入<sup>イレ</sup> 中<sup>ナカ</sup> 持<sup>チ</sup> 多<sup>タ</sup> 此<sup>ココ</sup> 是<sup>ココ</sup> 以<sup>ヨリ</sup> 依<sup>ヨ</sup> 中<sup>ナカ</sup> 寄<sup>ヨシ</sup>

若<sup>ニホ</sup> 崎<sup>サキ</sup> に 路<sup>ミチ</sup> を 行<sup>ユク</sup> む 紅<sup>ベニ</sup> 蓆<sup>シ</sup> 赤<sup>アカ</sup> 砂<sup>スナ</sup> を

凉<sup>レイ</sup> 備<sup>ビ</sup>

留<sup>リウ</sup> 别<sup>ベツ</sup>

青<sup>アヲ</sup> 草<sup>クサ</sup> ま ぐ 依<sup>ヨ</sup> 中<sup>ナカ</sup> 寄<sup>ヨシ</sup> 一<sup>イチ</sup> 枝<sup>エダ</sup> 赤<sup>アカ</sup> 砂<sup>スナ</sup> を  
赤<sup>アカ</sup> 尾<sup>ビ</sup> の 路<sup>ミチ</sup> に 登<sup>ノボ</sup> る 中<sup>ナカ</sup> 寄<sup>ヨシ</sup> 一<sup>イチ</sup> 枝<sup>エダ</sup> 赤<sup>アカ</sup> 砂<sup>スナ</sup> を  
月<sup>ツキ</sup> 如<sup>ニ</sup> 紅<sup>ベニ</sup> 涼<sup>レイ</sup> 兔<sup>ウ</sup> ハ 宿<sup>ヤド</sup> 入<sup>イレ</sup> 日<sup>ヒ</sup> 一<sup>イチ</sup> 水<sup>ミヅ</sup> 一<sup>イチ</sup> 川<sup>カハ</sup>

研<sup>ケン</sup> 居<sup>キ</sup> 麥<sup>マキ</sup> 林<sup>リン</sup> 凉<sup>レイ</sup> 兔<sup>ウ</sup>

古今所歌日見集卷之五

小枝送るもまのくに

興

物まきく庭ひさしくはくはくは

芭蕉

社中の

くくく

いろくにそごそく選くや種ふく種

凉休

贈答

至くおハ庭むりぞ松く

凉休

紫葺にまがゆ庭中

支考

ま梅多侍

俳仙窓

おぼろふ女もるくしてりみちうを

凉休

ま蓋ハを此表に

せしむ人とのり

蒲萄にも乳少くあはくは月

全

凉休の松はやど

まゆり松くまのひやを

おち白くそ蔓をまはぬく庭うを

希因

やまをぬくこの

石にあひく

このぬのりみちには戀を女とハ

江戸秋色

は光祿作は

まゆり松くまに

清水をむるにもあまもむはあど

凉休

原形を

まゆり

お秀や二度にのゆくあはいか

上毛西牧 蘆光

精まを白隠禪師

縮侍

不あ見えぬは何りのぞ秀まら海

青藍

古今所歌日見集卷之五

題詠

三界唯一心

蒲草や蔓一こころは心よす 素園

三足猿

木と月はよに代作やく中は猿 涼休

如是我聞

熱閃や二度めにさるまはる橋 白錯

皆是吾子

櫻橋にさるぬ子もなき彼者々を 沾徳

三笠山石墨

若の歌うつしくくろははい海 涼休

子名石の石をにどむや麻衣いろ 素園

貪着天上月失却手中珠

新海につまはく人やるるま月 上毛桐生 宇冲

機開木人

夏の夕人にとくそけかーくち

下総深神  
柴花

題畫

骸骨

竟ハいふか麻の骨や畑名は 麥林

兎

耳とつゝ 涙もかよひをほきー 兎士

狂画達摩

壁に骨噴のありや海の水 兎山

懐故の草を挿へし花圖

蒼くもらんばハおもろくさば 西羊

羣鴉明月之圖

庭にありてぐのわしをしりし月 麥二

加貝

家の縁あぐら

こけく脱牡丹にふりて海をみる 琳李



時もく〜紀つ馬に於枝も〜記 酒堂

悼 いゝ

季年花中たふさあハ月花取 采仲

目茶法鬱令の花もろ〜ろ中 杉風

此時を元さ先〜とあ〜ら也 季吟

母の目あつ〜く〜ら〜時  
ふせら〜を〜く〜よ〜季に〜花取

とせ〜が日あ〜ら〜  
た〜は〜

目もあは志あ〜時した記〜と〜 有英 能登七尾

希因がま〜ら〜と  
ま〜

情帰もあ〜ら〜あ〜ら〜と〜の〜 凉傳

九月八日芝山の事  
あま〜ら〜

あま〜ら〜ぬ世にわ〜ら〜と〜の〜 全

九月十二日双龍  
思を〜ら〜は〜

人の親も粟にむせふや十〜水 全

母の書に〜り  
〜人〜

吹にまはほまは〜るれも海も〜 麥林

麦林作を  
〜

登蓮が芒今〜は〜ら〜と〜かな 希因

懐 クハイ キウ  
舊

一矢が跡を〜

塚も勤け秀 哭<sup>ナク</sup>了<sup>ナク</sup>急<sup>ナク</sup>ハ 沼<sup>ナク</sup>も<sup>ナク</sup>こ<sup>ナク</sup>歩<sup>ナク</sup> 芭蕉

大<sup>ダイ</sup>和<sup>ワ</sup>の子<sup>コ</sup>代<sup>ダイ</sup>女<sup>メ</sup>ハ男<sup>オト</sup>又<sup>マタ</sup>なる<sup>ナリ</sup>む好<sup>ヨク</sup>ま<sup>マ</sup>く  
孫<sup>マコ</sup>せ<sup>セ</sup>侍<sup>シ</sup>り<sup>リ</sup>の<sup>ノ</sup>も<sup>モ</sup>れ<sup>レ</sup>お<sup>オ</sup>か<sup>カ</sup>る<sup>ル</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>を<sup>を</sup>  
大<sup>ダイ</sup>文<sup>モン</sup>字<sup>ジ</sup>の<sup>ノ</sup>火<sup>ヒ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ア</sup>う<sup>ウ</sup>つ<sup>ツ</sup>そ<sup>ソ</sup>ハ<sup>ハ</sup>孝<sup>コウ</sup>は<sup>ハ</sup>あ<sup>ア</sup>し  
父<sup>チチ</sup>いま<sup>イマ</sup>ま<sup>マ</sup>ぢ<sup>ヂ</sup>一<sup>イチ</sup>時<sup>ジ</sup>胸<sup>ムネ</sup>を<sup>を</sup>  
結<sup>ムス</sup>州<sup>シウ</sup>所<sup>ショ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ろ<sup>ロ</sup>ハ<sup>ハ</sup>新<sup>シン</sup>海<sup>カイ</sup>に<sup>ニ</sup>父<sup>チチ</sup>老<sup>ロウ</sup>一<sup>イチ</sup>  
柳<sup>ヤナギ</sup>浦<sup>ウラ</sup> ヤカキ

月<sup>ツキ</sup>も<sup>モ</sup>む<sup>ム</sup>や<sup>ヤ</sup>底<sup>ソコ</sup>に<sup>ニ</sup>も<sup>モ</sup>深<sup>フカ</sup>ま<sup>マ</sup>み<sup>ミ</sup>や<sup>ヤ</sup>こ<sup>コ</sup>も<sup>モ</sup> 凉俣

實<sup>ジツ</sup>盛<sup>セイ</sup>之<sup>ノ</sup>曹<sup>ソウ</sup> 芭蕉

む<sup>ム</sup>づ<sup>ズ</sup>ん<sup>ン</sup>や<sup>ヤ</sup>赤<sup>アカ</sup>か<sup>カ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>こ<sup>コ</sup>は<sup>ハ</sup>ト<sup>ト</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>ま<sup>マ</sup>く<sup>ク</sup>も<sup>モ</sup> 芭蕉

信<sup>シン</sup>玄<sup>ケン</sup>之<sup>ノ</sup>古<sup>コ</sup>城<sup>ジョウ</sup>

々<sup>々</sup>見<sup>ミ</sup>ま<sup>マ</sup>を<sup>を</sup>帷<sup>イ</sup>幕<sup>マク</sup>の<sup>ノ</sup>う<sup>ウ</sup>ら<sup>ラ</sup>も<sup>モ</sup>ま<sup>マ</sup>ぢ<sup>ヂ</sup>ま<sup>マ</sup>く<sup>ク</sup>也<sup>也</sup> 凉俣

祝<sup>イハヒ</sup>詞<sup>カヒ</sup> のつ

菅<sup>カネ</sup>神<sup>カミ</sup>

一<sup>イチ</sup>雨<sup>アメ</sup>や<sup>ヤ</sup>日<sup>ヒ</sup>に<sup>ニ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>も<sup>モ</sup>神<sup>カミ</sup>も<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>ち<sup>チ</sup> 希因

太<sup>タイ</sup>宰<sup>サイ</sup>府<sup>フ</sup>

街<sup>マチ</sup>の<sup>ノ</sup>彼<sup>カ</sup>に<sup>ニ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>砂<sup>サ</sup>ま<sup>マ</sup>や<sup>ヤ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>を<sup>を</sup> 凉俣

古今片歌明題集卷之五

冬 雜

人の歌徒き侍をまほほ 水小 雨石

漫 興

み條をまほほに 庭をまほほけ

飲料に加茂川おそちどまろか 京 浮風

おひひうけき ぬにあへほに

支袖に侍伺とくく 一く 誰 然

昔の香あうごきなをまぬべ 大和佐保川 乞骸人

紀 行

文字 関 比 け

葉の多はよまよりかふらちとまほ ねまら 七

藤月八日 山越くく

藤ハや山越吹海まろ 油 涼 威

越の候つて

うきもや夏より後ハ親あつて  
汶上

映花山てやま

花の影を映や花をむか  
琴詩

あ宅あたる

音の影の脊中をうちたけを  
映山京

若木のは枝えして

月も日もこゝろをてやあはれゆめ  
冠子

隅田川すみだ

船の足さくあそぶそとつた  
し

竹生時たけ

水もたけあそぶそとつた  
竹林

足利あし

毎事まいにやまはそしきことごと  
柳やなぎ児

くさく

松人よ香名もまじり神いづれ  
芭蕉  
枯らさびしやちやどに替く火さく  
理然

送別

あまのこ二人の痕やまは枯  
桑人  
又やはさく松人さきし  
智月  
うやうし  
涼休

留別

あはれうがきしとつふく日かま  
岸虎  
尾張路ハ後にひく御茶  
冬林

贈答

浅く極海佛もおがし  
涼休  
あはれぬ有や牡丹に意あふ  
希内  
茶は花や汲てもあは火たき  
今

葉の沸くぬくもやさ此魚シロイハナ 全

持くくくく世をく侍取中火 西美

題詠

修羅道

枯葉や起る我より一ト一ト水 氷く  
水如に弓ひく草ハやるるり 麥林

沉浮自在

水多や暴風の浪に浮あがり 俊徳トウ 慶跡

言魂のたもくは 固くくく

おとを目をみけくを漆くくく 下保シタ 馬影

白

初者や鳥の星は飛ぶぬくち 子永

題畫

出山像

埋火や噴く丸を星一ト 麥林

達摩

枯葉に履や跡して地も色カキ 全  
事跡ハ皆無印の枯野々那 一音

六歌仙

酒サケ 二人あふ酒や飲何ハ歩 涼備

東坡

香のいとねくも酒一並比有 其角

莊子

襟と何は羨ハき理ど何縁付 涼備



賀

あつたに吸考卷の

素此かい能原の通や素えしら 入楚

悼

かきくををさにかくも中枯芒ハナ 其角

十月を羨くはくまかへりもあ 嵐雪

麻も素をり水くさびし地野山 支考

カキ中素をかえくあこり 野坡

年の秋ア世つがの思うしるい

漆シをいづひもえどく然シのちぬ 守武

よ家のくま  
あまのくに

やほよいぞえうしあふ友ちとら 麥汀

懐舊クワイキウ

芭蕉塚むせを

筆をくびふしちやうにきまを 角上

友人の

筆へういたぬを啼くや友ちとら 麥林



祝詞いのちのつ 秀橘

官神

袖ハ空ナ海ナの像ナやそのう光 其梅

糸もくひ内以きりく降る  
叶神にすづ

不コト整コトの敷コトも本コトはるにや 涼備



上世片歌

○古事紀 いさむらひはみよといもいさむらひのみこにけつとけり  
 吾と汝とば天の御柱を行ゆ廻逢逢ことのまがひ  
 せらりか言あはれさうさうつひいさむらひはみよといもいさむらひ  
 みこ言まがひことあげたはり  
 あかはやーえ愛少女をこめを  
 後にいさむらひのみこ愛少男をこめを  
 あかはやーえ愛少男をこめを

○檀原宮御宇天皇代カニハラノミヤニアマノシタノヒラススメラミコト 武神  
タカサキス言依止野に何とべほせりのをく免れ才小大物とけ神の降

オホあはれさうさうつひいさむらひはみよといもいさむらひ  
オホあはれさうさうつひいさむらひはみよといもいさむらひ  
オホあはれさうさうつひいさむらひはみよといもいさむらひ

天皇

且 最先立 愛 卷  
 かつくもいやさきたて侍えをーまうひ  
 則いとるはるに大久采の命ミコト詔ミコトたつふれた時トケと利目  
 をえろあやーとれがして

天地取坐 登立 利所 利目  
 あつはちとまよーことおとさける  
 大久采の命

とくめはた直いふあひびと我がさけるやせん

○纏向日代宮御宇天皇代 景行

東のくればえをみむけあづ免ましくがへまはし時  
甲斐は海舟のまはして

倭建命

新治筑波過幾夜寝  
いひむつくはををさていくよりねつは  
御歌をつま

神代卷

かかへてよは九夜日十  
夜日十

○日一たびに能炊野ふらむし時園志ぬびきり

愛哉吾家方從雲立來  
はしとや一とぎのわたゆくもあちくも 倭建命

○倭建命神さるまゝしてやいろの志強ちどりころもあめに  
くけらるゝ波にひくひてまびいぬもさ磯にやひの歌時  
后と御子とちけみさるまゝ志強ち中に  
まははちどるはまはゆるぎていそつこか

○難波高津宮御宇天皇代 仁徳

みよの〜み〜女よのこは機織せ海を見そかりてたが

ふらんけうと御製歌のこしてそひけひりねを

高<sup>往</sup> 雀<sup>別</sup> 御<sup>衣</sup> 女<sup>鳥</sup> 王  
たうゆくやそやぶさこけのこををひけ

○日本書紀 桑田 玖賀媛 愛憐  
大皇くつこのくがひめを失うとおほせど后の

孫とみまひふもまうえのまであまことしあがりそのさう  
つれをさうむひてををいすれこあらさうあへんく小  
あををひん

水<sup>底</sup> 經<sup>臣</sup> 少女<sup>誰</sup> 將<sup>養</sup> 天皇<sup>仁</sup>  
みかそくふをこのをこのをたまやいかハヒ

○古事紀 大皇とよのあうまー 結<sup>終</sup> 治<sup>雁</sup> 卵<sup>産</sup>  
いすはめその時にかまは子うめ侍をえそまへて大御

よみてそひけひりねを  
なぐみこやつひに志らむとかまハこむら

○葛城忍海之高木角刺宮御宇天皇代 清<sup>寧</sup> 啓  
あひのをこくくうにたらてま 邪の命はよとんと志  
たまふをみなのみをさう

大<sup>宮</sup> 彼<sup>果</sup> 隅<sup>傾</sup> 志<sup>毘</sup> 臣  
おかみやのをこつはたてまかぬけり



○萬葉集 水 塞上 殖田 尼  
おほくハのいづをせきあげてく急したを

荷 早飯 獨  
かほこさひひハむとさるる

大伴宿祢家持

今世旋頭歌片歌

○今ハむい けしとまんとあひまは女のおつことひけ  
はが珠の人はあつまた<sup>オホキ</sup> 堪れまうのやれほをえむとて人ま  
宅にまうてまはるるをともそこにあまひめりたむひお  
しれとまうて後ひひるまへにあらぬあまの<sup>ミ</sup>おためひ  
多敷ふ女のりては庭の結ばさうらむはにからちてうらな  
ちりてえの取もあはばやうとまづいすの炭して結ま  
かへに。いほまの志はは人る結や。とまうかへりるま。

女ハえもりのを寄はぬとてかへまにかま紙に毛のそらにそ  
りの紙をとこはたきしにかまのりひひと10やうてうらな  
ほふ片歌

君とてハコゴホトのををきしにうらな

○松のやどりには<sup>サフルコ</sup> 松の女婦ふをてはにぎぬのかさう  
障子ひまひひやい日おろしうらくとて一とてい  
うらな

ぬ月ぬにいとぬまらぬおのつとぬ

さうは花はり女婦ハ親の月くはくはくはきかたけりて  
川もにるむはり親

おるい

川舟の音はあつこにめ高きききききき

ねん

お月おはあつこおりのあつこ雨

○おーんおのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ  
おのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ  
おのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ  
おのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ

あつこおのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ

か

あつこおのあつこおのあつこおのあつこ

あつこ

○あつこおのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ  
あつこおのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ  
あつこおのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ  
あつこおのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ  
あつこおのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ  
あつこおのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ  
あつこおのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ  
あつこおのあつこおのあつこおのあつこおのあつこ

いづれもあはれなるをいふはかたし  
けしきもいふはかたし

やちを

たるとは目もあはれなるはかたし

くはく

水邊むかりのあはれなるはかたし

綾太理

破了

雨漢月よもあはれなるはかたし

ゆゑに林のまきもあはれなるはかたし

東起

百枝

さやもあはれなるはかたし

西洋

玉子のつひのあはれなるはかたし

渡江

秋まぐろのあはれなるはかたし

友梅

日くまのあはれなるはかたし

雲郎

三茅野ハ船遊も様の人ゆきくは

琳理

かゝるにまきくや有居むたちを

禹貢

鴻鳥く板火の火歌に妹を見そめ

兔洲

兼せこけくもる念をいくおもそ先む

三子もりて先く原の海にをこころも  
かゝるに佛のこころにまきくむもくひけり  
宝曆十回より之はくもつてけの三日  
時正の日にまきくあつてをこころも  
たひくくにあまのこころがしらおろし  
けりてくけりてくくく細水祿作をむ

たのこまわしせしきみくく子の名はうは  
おひひけりてくくくく年か何孫もむ  
せまはけりてくくのかま母つてくく  
くく時にもみくくあまのけりてくく

あやたま

むくくく糖也のこまきぞ君子かおがそ

神か月つららに年か法作のりく  
戒くけくくく

青藍

神あゆまのり遊もくくきの山を

あかきこれ戒くけりてくく日まきく  
むくくく

古ばや



さく露のあふすてきてあはれあうたまを

玉の法をきくくむむむむのたまを

寶曆十三癸未歲殊九月

吸露菴藏板

俳諧羽類集

徳信子撰  
諸流發句集

五冊 片歌

道休子撰  
二冊 同 言

徳信子撰 二冊

芭蕉桐の一葉

二冊 同 茶花より道日

一冊

其角雜談集

二冊 同 舊宣集日

一冊

桑園集

桑園子撰

三冊 新文要語日

一冊

硯乃筏

允逸輯

二冊 以し書より日

一冊

思ふ

徳園白扇著

二冊 寒葉齋畫譜

唐画より 五冊

根たし草

凡草子著

五冊 水乃ゆく虫

東作著 五冊

志道軒傳

右日佐

五冊 俳諧不斷櫻

高点的白 全

左傳屬事

南陽先生校  
唐本翻刻

廿二冊

大明十三省圖  
萬國一器界圖

二枚

龍門先生文集

二編

三冊

歷代事跡圖

大清君翰訂正  
中華之大繪圖

一枚

大疑錄

貝原先生著

二冊

物類品鑑

平賀鳩溪著  
物産之書

六冊

經義折衷

金峩先生著  
評朱子陽明仁齋集

一冊

十體千字文

篆及異體

一冊

陸賈新語

蘭臺先生校本

一冊

六體千字文

崑陵先生書

一冊

王元美尺牘

一冊

猿橋碑銘

諸名家之文  
筆墨本

一冊

易學辨疑

金峩先生著

一冊

字畫淵海

筆法之書

二冊

大史華句

唐本翻刻

三冊

石印集誼

影刻刀法

二冊

拋入花の園

古人花  
乃思式

三冊

寐惚先生文集

狂詩  
小本

一冊

花千筋藤の作

玉晴

小説土平傳

狂詩  
小本

一冊

古言様

万葉集の詞  
魚彦撰

一冊

笑府

唐ノオトハナシ  
小本

一冊

百人一首解

栗本氏作

一冊

唐明詩鍵

詩作ノ書  
小本

一冊

久乃志久

古き文の廻  
邊刻

二冊

大東地名箋

詩作ノ書  
小本

一冊

あつち料理集

倉庫の  
料理

一冊

詩學小成

詩作ノ書

四冊

民間備荒録

あひの民と  
杉の書

二冊

又子法帖

松花堂の  
書札

二冊

信濃地名考

古以終山著

三冊

常經帖

松花堂の  
書札并詩等

二冊

七觀音經	略緣起入	全	瘡治茶篋	津田玄仙著	全
唐摹真本十七帖	明邢子京珍藏 東郊先生摹	全	外科撮要	青木鉅制子述	二冊
揮取先生社中之画 諸名公楮體畫詩	遊戲画帖	全	西遊紀行		二冊
解體新書	阿蘭陀腑分之書 杉田玄伯著	五冊	四溟陳人詩集		三冊
同	約圖	同右	五枚	郊華集	全
名物画譜	雪溪先生筆	三冊	繪本いろは歌	春信筆	三冊
市隱草堂集	安文仲著	五冊	繪本色紙の時	北尾重政筆	三冊
詩學楷梯	東里先生輯	四冊	誦讀名所方角集	谷素外輯	二冊

東都書肆

通室町三丁目  
須原屋市兵衛  
京寺町三茶上丁  
井筒屋庄兵衛

